

2010年 4月 大野榮人 学長就任 小出忠孝 愛知学院学院長との巨頭体制に



第170号

編集発行

愛知学院大学
事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町
阿良池12
電話 ☎ (0561) 73-1111(内)

愛知学院大学 新体制

学院長 小出忠孝

愛知学院は昭和25年短期大学を、昭和28年学院大学を創設以来、初代小出有三先生、第二代竹田鐵仙先生と、学院長が学長を兼務する一人体制でまわってきました。私も昭和63年に竹田先生から後任を指名されて以来今日迄23年間学院長と学長を兼務してきました。その間全教職員のご支援、ご協力により大学は現在8学部17学科、大学院9研究科に学生1万2千名を擁し、さらに歯学部附属病院を有する一大総合大学へと発展することができました。しかしこの様な巨大組織を従来通り、学院長と



していきます。全教職員にはこの新体制への改革の主旨をよく理解され、今迄以上のご支援を賜わりたくお願いする次第です。

「学長在任23年」

私は昭和38年に新設間もない歯学部を担当理事として、名古屋大学医学部より本学へ就任して以来、今日迄47年間愛知学院発展のため全身全霊をもって全力投球してきました。さらに学長就任前8年間、副学長として学長代行をしていましたので、学長就任以来の23年と合わせて31年間学院長の最も責任ある職務を続ける事が出来、極めて幸運であったと感謝しております。学長就任以来の事業をふり返って見ますと、先ず学部関係の新増設では文学部の国際文化と日本文化学科、経営学部、情報社会政策学部(現総合政策学部)、産業情報学科(現ビジネス情報学科)、国際経営学科(現現代企業学科)、現代社会法学科、心身科学部の心理・健康科学、健康栄養の各学科、文学部グローバル英語学科(短大英語科の四大化)、六年制薬学部、三年制短大歯科衛生学科・同専攻科(口腔保健学)等の新増設。大学院では文学研究科の英語圏文化と日本文化専攻、経営学研究科、心身科学研究科の心理学と健康科学専攻、総合政策研究科、薬科学研究科、法科大学院等の新設。また施設面では経営学部棟、総合政策学部棟、心身科学部棟、健康科学・健康栄養学科棟、教養部研究棟、図書館情報センター・法科大学院棟、学生ホール、けやきテラス(学生食堂・多目的ホール)、歯学部西館・新南館等の新増設、現在教学センター(教務部・学生部)を建設中です。

一方研究面では文科省の科学研究費補助金が中部地区でトップレベルの大学に、また特別研究助成で歯学部が学術研究フロンティア推進拠点或いはハイテク・リサーチセンターに選定され超大型研究助成を受ける等、研究面に於いて中部地区のトップレベルの大学に成長しています。この様に全国的にみても大規模総合大学へ成長しましたのも、全教職員のご尽力によるもので重ねて感謝するものです。現在私は文科省の各種委員会委員、大学関係特に私立大学関係団体の各種役員に選出され、私立大学を代表する役員の一員として重責を担っています。これらはすべて大愛知学院の学院長・学長を永年務めている事が認められたものであり、その責任の重大さを痛感しています。

「教育内容の一層充実」

現在わが国は経済不況に加え、グローバル化、情報化、少子高齢化等、社会構造全体が大きく変化する中、知識基盤社会の到来により高等教育を受けた人材の必要性が増大し大学の責任は大々となつていきます。しかし、大学全入時代を迎え学生の学力低下に対し、大学教育の質の向上が強く要請されています。本学も教育内容を充実強化すべく努力してきましたが、今度大野新学長就任によりその面を一層強化する方針であり、その手腕を大いに期待する所です。学長としても教育内容の充実強化、特に教育環境の充実改善のため一層努力する覚悟であります。



平成22年度

大学後援会総会開催

新会長に青山稔氏

つづき満期の5月8日(土)、大学後援会総会が全国各地から大勢のご父兄の出席を得て、日進キャンパスの百周年記念講堂にて盛大に行なわれた。

開会後後援副会長、小出忠孝学長、大野榮人学長の挨拶のあと、平成21年度の事業報告、決算報告、平成22年度の役員人事に続き、事業計画案、予算案などが審議され原案通り承認された。

本年度本部役員改選で、新会長に青山稔氏、副会長に島田雄仁氏、水野一樹氏、神谷竜也氏の3氏が選出され15人の新本部役員が決定した。

また大学の近況等について、竹市良成教務部部長、黒神聰学生部部長、芝隆史キャリアセンター部長よりそれぞれ近況報告があり総会を終了した。

14時40分からは、けやきテラス2階の食堂に会場を移し、保護者の皆さんや大学教職員との親睦を深めるためのレセプションが開かれた。

16時からは全国の各支部長が集まり、本年度の支部懇談会の事前打ち合わせのため支

平成22年度本部役員は次のとおり決定

平成22年度 大学後援会本部役員

(敬称略)

会長	青山 稔
副会長	島田 雄仁
総務部長	水野 一樹
教育部長	神谷 竜也
支部活動部長	町田 功
課外活動部長	二村 康行
厚生部長	長橋 國和
施設部長	竹田 賀宣
会計	加藤 巳彦
会計監査	水谷 豊
〃	佐藤 健嗣
〃	宮崎 宗市
〃	深澤 欽二
〃	湯浅 茂樹
〃	水野 詔文

学長就任の挨拶と提案

学長 大野 榮 人



この度、因らずも不肖私が学長に就任いたしました。

今日、日本の大学は、少子化の煽りを受けて、年々、18歳人口が減少しております。教育・研究に優れた、社会的な役割を果たす人材を育成し、魅力ある大学にならなくては生き残れないという厳しい現実を叩きつけられております。

現に、定員を充足できない大学が50パーセントに達しております。こうした難局を乗り越え、本学が生き残っていくためには、厳しい社会的現実を踏まえ、全教職員が心を一つにして、「魅力ある大学造り」に前進していかなければなりません。また、全学生諸君からも、「愛知学院大学に入学してよかった」と、言われる魅力ある大学造りに邁進していきたいと念願しております。

そのために、全体的な提案と各部門に分けて具体的な提案をしていきたいと存じます。

I、全体的な提案

(1) 教育・研究・業務に専念できる環境を整備し、各自の能力を十分に発揮して頂きたい。

(2) 常に学部やカリキュラム等の見直しをし、社会の求めに対応できる体制を構築していきたい。

相互で授業を点検し合うという方法はどうか。

(2) 大学の教員は研究職であり、教育の専門家ではない。教員に教育力を身につけてもらうため、教育の専門家を招いて、「教育法・授業法改善の講習会」を学部ごと開催してはどうだろうか。

(3) 学生の「やる気」を喚起するための一つの方法として、1・3年までに資格支援講座・全学開講の教職、図書館司書・司書教諭、各学部学科で取得できる資格の中から最低一つを選択し、資格取得に挑戦してもらうことを制度化したい。資格を取得できれば自信も付くであろうし、学士力の向上、就職にも有利となるであろう。

(4) 全教員は一律に、努力をしない学生には単位を出さないという厳しい教育環境を構築したい。

(5) 高等教育研究所を充実させ、教育に関する様々な提案を発信してもらいたい。初年度教育の在り方、学士力を身につけるための具体的方法等を発信してもらいたい。

三、学生の諸問題に対する提案

(1) 学生の心の病、ハラスメント等の様々な問題への対応を充実させたい。

(2) クラブの不祥事の再発防止のため、体育系・文化系クラブの部長・監督会議、また学生責任者会議を開催し、クラブ内で起こっている問題について事前に話し合う機会を設けていきたい。二度と不祥事が起こらない体制を構築していきたい。

(3) 本学の主催で、一年に一回くらいマスコミ関係者を集め、大学との交流会を開催して、大学のマイナスイメージを払拭しなければならぬ。

四、就職に関する提案

(1) 全学生にキャリア・カルテを提出してもらい、就職を希望してもらったための教育を充実させたい。不況下ではあるが、就職決定率を90パーセントにするため、キャリア教育をさらに充実させなくてはならない。

(2) インターンシップの希望者が年々増加しているが、希望者全員を受け入れられないのが現状である。受入の企業を増やしていくための対策を検討したい。

五、教員に関する提案

(1) 今日、教育が重視されて研究が問題になっていない。大学の教員は研究職であり、継続的に研究されて然るべきである。

(2) 「科学研究費」「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」などに申請するためには、日頃から個人研究や共同プロジェクト研究が推進されなくてはならない。

(3) 研究所予算は増減があり、研究成果に応じた予算配分がなされなくてはならない。

(4) 個人研究費の問題にすれば、大変なことになるであろうが、一律ではなく研究成果に応じて配分してはどうだろうか。

六、施設に関する提案

(1) キャンパスの各所にベンチを設置し、美しい環境を整備したい。

七、IT施設の一元化に関する提案

(1) 日進キャンパスにはIT関係の施設として、ネットワークセンター、情報処理教育センターの他に、3・4・6・9・12・14号館に分散している。各所にあれば便利であるが、経費の面からは無駄が多すぎる。

八、同窓会との交流に関する提案

(1) 本学の同窓生は社会の第一線で活躍されている。同窓生と大学の絆を深めていくため、大学と各学部の同窓会との協賛で、大学において一年に一回「ホームカミングデー」を開催して、同窓生との交流を深めていきたい。

以上、様々な提案をしてきましたが、先ずやれることから実行していきたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

入学式式辞(抜粋)

目的意識を持った学生生活

新入生の皆様、ご来臨のご父母の皆様、ご入学を衷心よりお慶び申し上げます。ここの日進キャンパスの桜も満開となり、皆さまの入学を祝しております。

1万3千余名の受験生の中からめでたく合格され、本学を選んで入学して頂きましたことを、先ずもお礼申し上げます。

皆様の入学されました愛知学院大学は、仏教の中の禅の教えを母体とした曹洞宗教団が設立した仏教系の大学です。こうした式典は仏式において行われますので、ご承知おき頂きたいと存じます。

一、大学生活を始め

新入生の皆様、これから大学生活を始められるに当たって、先ず皆様にお願ひしたいことがあります。それは、「大学4年間をいかに過ごすか」という明確な目標を持つて頂きたいということです。

大学4年間は、ご自分の人生の目標を達成するための重要な準備期間であると心得て頂きたいと存じます。大学生活の具体的な過ごし方について

お願ひしたいことがあります。

(1) 新たな教養や知識を身につけてもらうために、毎日、書物を読む習慣を身につけて頂きたいと存じます。

(2) 全学対象の様々な資格支援講座・教職・図書館司書・図書館司書教諭をはじめ、各学部学科で開講されている様々な資格取得科目があります。1・3年の在学中に最低一つの資格取得に挑戦して頂き、実際に資格を取得して頂きたい。資格取得に挑戦することによって、自らの力で人生を切り開く原動力を身につけてもらいたい。また、キャリア教育は1年次から始まりま

すので、諸種の講座に参加して下さい。常にキャリアセンタ―に足を運ぶ習慣を身につけて頂きたいと存じます。

(3) 大学4年間に自分は何を研究するのか、早急に「研究目標」を設定して、日々その目標を達成するための努力をして頂きたい。大学は教育の場であると共に、研究の場であることも自覚して頂きたい。

(4) 授業は教員の話を一方向的に聞くのではなく、積極的に質問をして教員を困らせ、その授業に参加して頂きたい。

(5) 卒業後、自分は何を職業とするのか。その目的を達成するために、大学4年間に何をやらねばよいのか。具体的に自分自身の人生設計図を描いて、日々努力に努力を重ねて頂きたいと存じます。

大学4年間は、いかに過ごすかによって、私共の人生は決定するといっても過言ではありません。日々の努力の積み重ねが、大きな目標の達成が可能となります。

二、自己の能力の開発を

一人ひとりの人間には、本来無限の能力と可能性が与えられております。大学の教育

は、学生の一人ひとりが持っている十全の能力を引き出すことにあります。教員の一人ひとりとは本気で教育に取り組んで参ります。

特に新入生の皆様には教養課程及び専門課程におきまして、それぞれ初年度教育が実施されます。学問する基礎は、「読み・書き・ソロバン」と言われますように、読解力や文章力を身につけてもらい、自立した学問・研究の方法を学んでもらい自立した自己を確立して頂くことを願っております。自ら学問する喜びを見出してもらい、問題意識を持って自ら考える力を身につけてもらいたい。

折角、大学に入学されたのに授業は欠席し、学ぶことや書物を読むことを忘れ、考えることを怠り、安易に楽な道を選択することは厳しく慎んでもらいたい。自分を厳しく律することを願ひしたい。

三、本学の教育理念

本学の教育理念は建学の精神である「行学一体・報恩感謝」です。あくまでも大学は学問・研究する場所であるという自覚を持ってもらい、学問・研究を通して正しいことを学び、学んだ正しいことを実際の生活において実践し生かしていくというのが「行学一体」です。

私という一人の人間が生きていくためには自然現象の力、経済的支援をして頂く両親の支えなど、様々な恩恵を受けています。私を生かすために、私の内臓諸器官は一日も休むことなく、私を生かし続けてもらっております。全ての人やものに感謝の心で生きるこれが「報恩感謝」です。

この建学の精神を具現するため、「二祖三仏忌」(4月8日、9月29日、12月8日、2月15日)の仏教行事が本部

棟3階大会議室で行われますので参加して下さい。

8月初旬に1年生を対象に福井県にあります曹洞宗の大本山永平寺での参拝が1泊2日で行われます。積極的に参加して下さい。修行は厳しいですが、生涯の宝物を手にすることが出来ます。7号館南側にあります坐禅堂で毎月第2火曜日の午後5時から「火曜参禅会」が行われます。これらの行事に積極的に参加して頂き、自らの身と心を磨き続けて、自己の人格形成に挑戦して頂くことを願っております。

四、決して一人で悩まない

学生生活を始めるに当たって、未知なことはばかり多く不安を抱えておられることでしょう。学生の皆様の学習・生活などあらゆる相談に対応するため、きめの細かい支援体制を構築しておりますので、決して一人で悩まないで積極的に教職員に相談して頂きたいと存じます。

五、やる気と目的意識を

学生さんが「本物の人間」になつてもらうために、私ども教員は「本物の教育」をしなくてはならないと考えております。そのために厳しい教育環境を用意させてもらいます。努力しなくては単位が取得できず、簡単に卒業できない大学をめざしております。皆様も自分の秘められた無限の能力に挑戦し、「やる気」と「目的意識」をもって常に努力してもらい、自分を磨き続けて頂きたい。卒業される時は豊かな教養と人間性を身につけられ、自ら誇れる「学士力」を身に付けた人格に変わ身させて頂きたい。そうすれば必ず可能性に満ちた未来が開かれるであろうことを約束させていただきます。

本学歯学部、

台湾の高雄醫學大學口腔醫學學院と

学術交流提携(姉妹提携)を締結する

さる3月16日(火)、台湾では歯科医学教育の中心となる機関の一つである高雄醫學大學口腔醫學學院から謝天渝院長を始め6名の教員が本学歯学部を訪れ、小出忠孝学部長、野口俊英歯学部部長はじめ歯学部教授はじめ教員、現在歯学部留学中の客員研究員ら36名が出席の下、ルブラ王山(名古屋市中千種区)において厳かに学術交流提携調印式が執りおこなわれた。

学術交流委員長の千田彰教授の司会のもと、まず野口俊英歯学部部長より提携に至る経過説明があり、つづいて調印式、記念品交換が行われた。

引き続き小出忠孝学部長と謝天渝院長の挨拶があり、調印式が終了した。調印式後は締結を祝し、また恒例となっている留学生交流のパーティへと移行した。

高雄醫學大學と学術交流提携(姉妹提携)に至った過程は次の通りである。昭和48年に、高雄醫學學院(現高雄醫學大學)の謝天渝院長が本学歯学部口腔外科第二講座(当時)河合幹主任教授(現名誉教授)の下へ留学した。

現在、本学はアジアからの留学生が名古屋大学について多い大学となっているが、当時としては大変稀なことであった。歯科医学に対する真摯な態度と勤勉な謝天渝院長は、来日するや否や、日本の歯科医師国家試験に合格し周開を驚かせた。謝天渝院長の優秀

さることもながら、同時に高雄醫學大學口腔醫學學院の教育レベルの高さを示すものとなった。その後、昭和56年には、本学から歯学博士の学位が授与された。歯学博士は当時、甲乙合わせても100名にも満たなく、本学の卒業生でも珍しい時代であった。本学歯学部助手、講師としての研鑽をもとに、高雄醫學大學に戻ってからは、台湾に特有の「びんろう」嚼みの習慣について、発がん性や原因探索、その予防方法の研究は有名である。

謝天渝院長がきっかけとなり、その後、高雄醫學大學の後輩が13名もの多数本学で学んでいる。その中、これまでに謝天渝院長を含め4名の方が本学から歯学博士の学位を取得している。

謝天渝院長は、現在台湾の口腔保健の向上の指導的立場で日本の口腔衛生の制度、歯科衛生士教育、国民皆保険制度の導入に寄与してきた。一方で、本学の河合幹名誉教授を始め、多くの教授陣を講師として高雄醫學大學、台北市など台湾へ招き、日本の最新歯科医学、歯科医療制度の紹介をしながら、両大学の友好、交流の橋渡しに努めている。

今回同行した高雄醫學大學歯科衛生学(陳引森学部長、おおよび、台中市の中国醫藥大學歯科衛生学(林文海学部長)と本学短期大学歯科衛生学(向井正視学部長)と



の間で、学術交流提携(姉妹提携)をすることが話し合われ、今年度中に提携調印式を行い、来年からは学生交換などを行うことが合意された。グローバル時代、今後の大学、短期大学部を含めて両大学の交流がこれを機会にさらに盛んになることが期待される。

春の叙勲

佐野勝次名誉教授

選出される

瑞宝中授章

受賞



佐野勝次
名誉教授

佐野勝次名誉教授が、長年の教育研究功勞により瑞宝中授章を受けた。同教授は昭和

6年3月30日生。昭和39年早稲田大学大学院商学研究科金融論専攻博士課程満期退学。昭和39年本学商学部助手として赴任され、同40年講師、同43年助教授、同53年商学部教授。昭和58年から62年まで商学部長、昭和63年教務部長、平成11年図書館長など要職を歴任された。平成18年4月本学名誉教授。研究分野は金融論、銀行論を中心に、内外の金融市場ならびに銀行経営、更には金融政策に及んでいる。また、課外活動では35年間本学サッカー部長を務められ、日本代表選手の松永茂立・秋田豊などの選手を育てられた。

名誉教授

称号記授与式が

実施される

本学教授会にて名誉教授授与が決定した4名の先生への名誉教授授与式が、4月1日(木)10時30分より楠元学舎法人本部大会議室において厳粛に行われた。

当日は、加藤勇夫商学部客員教授、黒田喜重法務研究科客員教授、中谷光隆法学部客員教授、若原茂法学部客員教授に大野榮人学長より名誉教授称号記が授与され、授与式が無事終了した。



アドミッション・オフィス方式による入試					
	第1次選考 出願期間	第1次 合格発表日	第2次選考 出願期間	第2次選考日	合格発表日
文学部 心身科学部 (健康栄養学科除く) 商学部 経営学部 法学部 総合政策学部 歯学部 短期大学部	H22年 9月24日(金) 10月1日(金)	10月9日(土)	10月12日(火) 10月14日(木)	10月17日(日) (小論文・面接)	10月23日(土)

特別入試			
	出願期間	試験日	合格発表日
推薦 3学年編入			
3学年編入 2学年編入 薬学部・歯学部第2学年編入 大学士 帰国生徒 社会人	H22年9月6日(月)～9月16日(木)	9月26日(日)	10月4日(月)
再入(Ⅰ期)			
再入(Ⅱ期)	H23年2月15日(火)～3月1日(火)	3月10日(木)	3月19日(土)
外国人留学生 指定校推薦	H22年11月8日(月)～11月16日(火)	11月28日(日)	12月6日(月)
Ⅰ期(国内・国外)			
Ⅱ期(国内のみ)	H23年2月1日(火)～2月9日(水)	2月18日(金)	3月1日(火)
Ⅰ期(国内・国外)	H22年11月8日(月)～11月16日(火)	11月28日(日)	12月6日(月)
Ⅱ期(国内のみ)	H23年2月1日(火)～2月9日(水)	2月18日(金)	3月1日(火)

【注】入学手続き完了者で3月31日(木)午後4時までに入学辞退書を本学入試センターに提出したときは、入学金以外を返還します。

一般入試			
	出願期間	試験日	
指定校制 公募制A(専願) 公募制B(併願可) (歯学部・歯学部・短期大学部は実施しない) 専門学科推薦 (商学部・経営学部・総合政策学部は実施しない) スポーツⅠ期 スポーツⅡ期 大学入試センター試験	H22年11月2日(火)～11月11日(木) 窓口のみ11月12日(金)正午まで H22年11月2日(火)～11月11日(木) H23年1月17日(月)～2月3日(木) 試験日 → H23年1月15日(土)・16日(日)	11月20日(土) 2月14日(月)	
文学部 心身科学部 商学部 経営学部 法学部 総合政策学部 薬学部 歯学部 短期大学部 全学部全学科(複科配点方式) (歯学部・歯学部・短期大学部は実施しない) 前期M (歯学部・歯学部・短期大学部は実施しない) 中期試験 (複科配点方式) (歯学部・歯学部は2科目まで実施) (短期大学部は1科目まで実施) 「センター試験」 利用試験Ⅰ期 後期試験 (短期大学部は1科目まで実施) 「センター試験」 利用試験Ⅱ期	H23年1月6日(木)～1月20日(木) 窓口のみ1月21日(金)正午まで H23年1月17日(月)～2月3日(木) 窓口のみ2月4日(金)正午まで H23年1月6日(木)～1月20日(木) 窓口のみ1月21日(金)正午まで H23年2月15日(火)～3月1日(火) 窓口のみ3月2日(水)正午まで	2月1日(火)～4日(金)【注1】 2月1日(火)・3日(木)【注1】 2月3日(木) 2月1日(火)・2日(水)【注1】 2月3日(木)・4日(金)【注1】 2月5日(土) 2月14日(月) 2月14日(月) 2月14日(月) 3月10日(木) 3月10日(木)	

【注1】試験日は出願時に選択してください。試験日が異なる場合は同学科および他学科を併願することができません。

【注2】公募制推薦B・前期試験A・B・中期試験・「センター試験」利用試験Ⅰ期・後期試験の入学手続き完了者で3月31日(木)午後4時までに入学辞退書を本学入試センターに提出したときは、入学金以外を返還します。

平成23年度入試日程

就任あいさつ

心身科学研究科長



玉川 達雄

心身科学研究科に入学された皆さん、おめでとうございます。この研究科は、我が国唯一、心と身体と栄養に関する専門家が集う心身科学部に設置されています。文科系と理科系の教員が同じ空間に存在し、お互いに刺激し合うことで新しい学問が創造されることが期待されます。心理学専攻は文学部時代からの長い伝統があり、臨床心理士の合格者数は中部地区一位であります。健康科学専攻は昨年度、初めての修士課程修了者を出しました。今年度からは博士後期課程も始まります。学部の健康科学科においては健康運動実践指導者試験の合格率が全国トップレベルを誇り、保健体育や養護の教員採用も年々増加しています。また昨年度の言語聴覚士国家試験においても全国平均65%の合格率のところを本学科は96%という素晴らしい結果を出しました。

総合政策研究科長



二宮 克美

この平成22年4月から総合政策研究科長をつとめることになりました。学内ならびに学部内のみならずのご協力を得て、この大役を果たしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。現代社会の多様な変化に対応し、そこに生じるさまざまな問題を解決するためには、既存の枠にとらわれず、複数の学問分野の知識や技能を活用して問題に対処する必要があります。総合政策研究科は、人間環境と社会システムという2つのコースの交流を通して、総合的な視野から創造性あふれた政策提言を行える人材の育成を行っています。

文学部長



安藤 充

4月より文学部長の職を拝命し、まだ責任の重さすら認識できていない状態ですが、先生方、職員の方々に助けていただきながら、微力を尽くしたいと思っております。文学部は、それぞれ専門性の異なる五つの学科(歴史、日本文化、国際文化、グローバル英語、宗教文化)のゆるやかな連合体です。大学院も合わせると、全国有数の規模と総合性を備えています。文学部での学びは、人間存在そのものの問いかけとも言えます。思想や宗教、言語や文学、人々の暮らしや社会のあり方など、人間の築き上げてきた文化的活動やその歩みを読み解くことは、過去を見つめ、未来を切り開くために最も大切な知的な営みです。先行き不透明な今の時代こそ、文学部の出番—このくらしい誇りと自信をもって、学生諸君には勉学に励んでいただきたいと思っております。

経営学部長



向 伊知郎

本年4月より、経営学部長を拝命いたしました。よろしくお願いたします。経営学部長は、1990年に設置され、今年20周年を迎えます。20周年にあたり、記念行事を企画していますので、その節にはご協力のほど、よろしくお願いたします。今年度の入試は、受験生が大幅に増加し激戦でした。厳正な合否判定の結果、経営学科231名、現代企業学科148名の新生を迎えました。激戦を勝ち抜いた新入生諸君に賛辞を送ると同時に、在学生を含め、愛知学院大学経営学部の学生としてプライドをもって学問に取り組んでくれるものと期待しています。「平成」に入ってから、日本経済は長期的不況です。最近では、リーマンショック、トヨタショック等、日本経済は「失われた20年」が過ぎ去りました。このような不況の中で、昨年度の経営学部の就職率は、どうにか90パーセントとなりました。一方で、就職内定の時期は、ここ数年、どんどん遅くなっています。このような暗い時代の中で、若い学生が自らの可能性を開かせるためには、学生個人個人がプランを立てて、チャレンジ精神をもって生活することが必要です。我々経営学部の教職員は、学生たちが明るい未来を築くことが出来るように、教育・指導に取り組んで参ります。保護者の皆様方には、今後とも、大学教育にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願申し上げます。

総合政策学部長



横 伯彦

この4月に総合政策学部長を拝命しました。予定外のことではありますが、お引き受けるからには、力を尽して職責を果たしたいと思っております。総合政策学部長は、本年3月に学部名改称後の初年度を迎えました。前身部から数えれば本年度で13年目を数え、人間の成長を促すという使命を担っています。本学部は、個人の生き方から、教育、経済、政治、国際関係までの幅広い分野の科目構成を持ち、自立を目指し、社会への貢献を模索する者を受け入れています。入学生は、先ず現代社会生活への適応力として、言語情報、調査の基礎力を養う必修の教育を受けます。また、4年間毎年少人数の演習クラスを設けて、自らの社会人としての課題を発見し、その理解、分析の力を養い、具体的な解決への提言に至る指導を積み重ねています。現在の在籍生は、4月当初で122名ほどですが、入学から卒業までのこうした4年間の教育課程を同じく履修し、学部教員とも日常の交流を深めています。決して不安を抱えて入学した諸君も、自ずと進んで道を発見し、社会へ出る準備を整えて巣立って行っていることは、これまでの統計による匿名調査となった卒業生の就職率の高さ、その就職先の広がりから証明していると言えます。また、本年度の新入生は、静かなる講義態度、出席率の高さなど、すでに学生として優れた資質を示しており、このような諸君とともに新しい歩みを始められることは個人的にも喜ばしく感じ、将来に期待を抱いています。

図書館情報センター館長



田中 弘

この度、図らずも図書館情報センター館長の大任を拝命いたしました。図書館は、学生・教職員の学習・教育・研究を支える基盤的施設として活動する大きな使命を担っています。かかる重責を痛感し、職務遂行に当たって身の引き締まる思いであります。平成16年の新館増設を機に「図書館情報センター」に改名し、総面積1万4千㎡、蔵書数約84万冊、閲覧座席数1千4百席を有する中部圏の最大規模の図書館となりました。情報センターの名前が示すように、図書や資料を体系的に収集・整理・保存・貸し出すといった基本的業務に加え、蓄積している学術情報を利用者の要求に応じて素早く提供する情報の発信基地として、さらに知的世界のナビゲーターとしての役割を担うことが求められています。ITの進歩が書籍の電子化を進め、インターネットの普及が世界的に巨大な電子図書館を誕生させるなど、図書館の文化的・社会的役割・機能を高度化・多様化させ、変化への対応を迫っています。こうした図書館を取り巻く環境の変化を見据えながら、開かれた図書館、利用しやすい図書館を目指して大野前館長が打ち出された改革路線をしっかりと継承してまいります。本学図書館の理念と目標を実現すべく、館員が一丸となって、利用者に満足度の高いサービスを提供できるよう努めてまいります。皆様のご指示とご協力を切にお願申し上げます。

四月新任教員紹介

- ①氏名 ②生年月日 ③出身地 ④最終学歴 ⑤就任直前の職歴 ⑥専門分野、主要著書 または論文 ⑦趣味・スポーツ

【法務研究科】

- ①田上 富信・教授 (たのうえ・とみのぶ)
- ②昭和16年③大分県④神戸大学大学院法学研究科博士(法學)

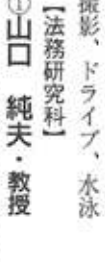


田上 富信

- ⑤関西学院大学大学院司法研究科(法科大学院)⑥民法、「使用関係における責任規範の構造」(有斐閣、2006年)、「やさしい事務管理・不当利得・不法行為法」(法学書院、2003年)、「判例・事例で学ぶ消費者法」(共著)(有斐閣、1994年)
- ⑦音楽(クラシック)、写真撮影、ドライブ、水泳

【法務研究科】

- ①山口 純夫・教授 (やまぐち・すみお)
- ②昭和16年③京都府④京都大学大学院法学研究科博士(法學)

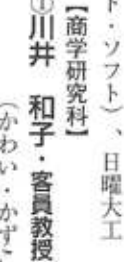


山口 純夫

- ⑤甲南大学法科大学院⑥民法、民法(財団法人「第3版」)⑦コンピュータ(ハード・ソフト)、日曜大工

【商学研究科】

- ①川井 和子・客員教授 (かわい・かずこ)
- ②昭和27年③東京都④日本女子大学、国士館大学大学院法学研究科博士課程修了



川井 和子

- ⑤京簡易裁判所民事調停委員⑥



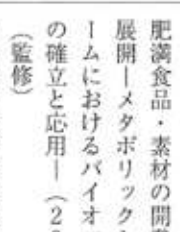
川井 和子

- ①大澤 俊彦・教授 (おおさわ・としひこ)
- ②昭和21年③兵庫県④東京大学大学院農芸化学博士課程⑤名古屋大学大学院生命農学研究科・教授⑥酸化ストレス制御食品開発の基盤的研究、1)バイオマーカーの開発、抗肥満食品・素材の開発と応用展開メタボリックシンドロームにおけるバイオマーカーの確立と応用(2007)(監修)



大澤 俊彦

- 2)機能性食品の事典(2007)(共著)
- 3)アンチエイジング医学の基礎と臨床(2008)(共著)
- 4)テラーメイド個人対応栄養学(2009)(共著)
- 5)Lipidomics(2010)



大澤 俊彦

- ⑦旅行、マリンスポーツ



大澤 俊彦

- ①齋藤 眞・教授 (さいとう・まこと)
- ②昭和38年③京都府④京都大学大学院教育学研究科博士課程修了



齋藤 眞

- ⑤愛知教育大学教育学部准教授⑥臨床心理学、分析心理学⑦読書



齋藤 眞

- ①齋藤 満・教授 (さいとう・みつる)
- ②昭和19年③富山県④金沢大学教育学部、医学博士(名大)⑤豊田工業大学工学部一般教育分野 教授⑥

齋藤 満

進路・就職状況

について

平成22年3月
卒業生の就職状況

平成21年度卒業生の就職活動は、一昨年の10月から就職情報各社のサイトが早々にオープンし、本格的に動き出しました。リーマンショック以降の景気の冷え込みから就職活動への危機感が強く広がり、そうした学生の不安を反映して就職サイトの登録数も伸び、それに煽られる形で企業側の動きも活発化していきましました。その一方で、業績の悪化で採用活動そのものを中止する企業もあり、好調から一転して後半に悪化した平成20年度と異なり、初期段階から厳しい就職環境となりました。

本学においては企業との接触の機会を数多く設けてきました。11月には「業界・企業研究セミナー」で上場企業・有名企業による学内での合同説明会、1月には地元企業を中心とした「学内就職セミナー」を開催いたしました。各セミナーの参加企業を増やして強化に取り組むとともに、それ以降も個別企業の学内セミナーを随時開催しています。現下の環境は、企業主催の説明会には参加予約が取りにくい状況となっていました。これは、採用数の減少から説明会の枠が少なくなり、それに反比例して学生の参加意欲が高まったためです。またWEB上での筆記試験を導入して

早期に絞込みを行う企業も増加していきましました。

就職決定状況

厳しい就職環境の中、6月の段階において本学では前年とはほぼ同様の企業からの内定を獲得することができました。しかし、各企業の内定者数は前年より減少したケースが多く、全体としては苦戦する学生が目立ちました。

現在の採用活動は、ネットでのエントリーに始まり、まず企業独自の履歴書であるエントリーシートや筆記試験によって応募者を絞り込み、複数回の面接を実施するケースが基本的な流れです。面接においては集団面接と個別面接があり、早い段階で集団面接が行われ、早い段階で個別面接が行われる傾向があります。本学では、こうした選考の各ステップに対応できるように、就職対策講座や模擬面接を中心にその対応をレクチャーしてきました。学生の頑張りも

あつて、就職決定率は92.6%と就職氷河期の再来と言われるほど冷え込んだ就職戦線の中、高い数値を確保することができました。

つた進路になっていきます。なお、公務員試験の面接対策についても、在学中と同様に模擬面接などの支援を行っております。

平成22年度(平成23年3月卒業予定)の就職環境

未決定者につきましては、本学の既卒者向けプログラムを利用して、卒業後もキャリアアセンダー、栄サテライトセンターでの相談を継続してまいります。また大学に届く「既卒者」の求人をも自宅でも検索できる体制を整えて引き続き斡旋にあたっています。その成果もあり4月以降でも25名の就職決定報告がありました。

企業の採用意欲は引き続き冷え込んだものになっており、前年にみられた自動車産業や金融以外にも幅広い企業で採用数が伸びてきました。多くの応募者から少ない内定を出すため、今年は採用活動の長期化が顕著になってい

ます。1次試験と2次試験の間が長くなるなど企業側が他社の状況を考慮しながら慎重に選考を行っていると考えられます。

そうした中で、本学ではキャリアアセンダーの各学部担当による電話連絡を強化し、長引く就職活動を勝ち抜いたのサポートに努めています。これは、早期に結果が出ない学生が求人情報の検索や応募

を諦めようという状態を防ぐためのものです。内定の報告や証明書の発行がない場合を中心に、電話での新着求人の紹介や相談を行っています。

また前年に引き続き中日ビル11階の「栄サテライトセンター」で相談、履歴書の添削、模擬面接などを受け付けています。1月から6月という就職活動が活発な時期に、多くの企業が説明会や選考を行う栄地区で支援を行うため、多くの学生が就職活動の拠点として活用しています。

本学では入学直後からのキャリア形成教育に取り組んでおり、キャリア形成支援と就職支援(相談・指導・斡旋)に対して、段階的かつ実践的な支援プログラムを確立しています。

キャリア支援では秋学期の授業「キャリア・デザイン」、

また公務員志望の学生に対しても、公務員ガイダンス、各団体の説明会などで情報を

提供しています。またミニ模擬試験を定期的に開催することと筆記試験対策で焦りがちな学生に目標を認識させるなど手厚くサポートしています。

筆記試験合格時には、過去の質問例をもとに模擬面接を実施して面接対策も強化しています。

また、学年を問わずキャリアアセンダーの情報を得るツールとしてホームページを充実させ、行事の日程や内容なども掲載しています。同時にメール配信により、学生のアドレッシングや求人の情報が届くシステムを確立し、学生自身が最新の情報を取得できるように利便性の向上に努めています。

ご父母の皆様には、ご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

キャリアセンター
就職課主任
高嶋基則

キャリアセンター
就職課主任
高嶋基則

キャリアセンター
就職課主任
高嶋基則

キャリアセンター
就職課主任
高嶋基則

キャリアセンター
就職課主任
高嶋基則

後援会支部懇談会全国22会場で開催

支部懇談会講演会

平成22年度の支部懇談会が6月5日(土)から7月4日(日)まで全国22会場で行なわれます。当日は後援会本部役員をはじめ、大学から教務・学生・就職の担当職員が出席して、ご子息の成績、クラブ活動、就職など学生生活全般にかかわる相談を承ります。

当日は、既にご送付いたしましたご子息の成績表を必ずご持参ください。

また、次の8会場においては本学教授の講演も実施いたします。万障繰り合わせご出席下さいませようお願い申し上げます。

○6月6日(日) 一宮
竹市良成 教務部長
「教育言説について」

○6月12日(土) 静岡
佐藤祐造 心身科学部長
「漢方医学入門」

○6月26日(土) 名古屋(日進)
佐藤祐造 心身科学部長
「漢方医学入門」

○7月4日(日) 四日市
寶多國弘 図書館長
「PB商品の開発事情と市場へのインパクト」

○7月4日(日) 浜松
黒神 聡 学生部長
「最近の国際情勢」

— 国際政治・経済と国際法の接点 —

平成22年度 支部懇談会会場一覧

月/日	開催地	会場名	所在地	大学代表者
6. 5(土)	福岡	ホテル日航福岡	福岡市博多区博多駅前2-18-25	向経営学部長
6. 5(土)	高知 (※・南以外)	三 翠 園	高知市鷹匠町1-3-35	芝 キャリアセンター部長
6. 6(日)	熊本	熊本ワシントンプラザ	熊本市下通2-3-10	向経営学部長
6. 6(日)	徳島 (※・南以外)	センチュリープラザホテル	徳島市南昭和町1-46-1	芝 キャリアセンター部長
6. 6(日)	一宮	真清田神社参集殿	一宮市真清田1-2-1	竹市教務部長
6. 6(日)	長野	松 本 東 急 イン	松本市深志1-3-21	横総合政策学部長
6.12(土)	富山	富山電気ビルディング	富山市桜橋通り3-1	安藤文学部長
6.12(土)	岡山 (※・南以外)	岡山プラザホテル	岡山市浜2-3-12	尾崎商学部長
6.12(土)	静岡	サンパレスホテル	静岡市駿河区南町11-29	佐藤心身科学部長
6.13(日)	石川	金 沢 都 ホ テ ル	金沢市此花町6-10	安藤文学部長
6.13(日)	広島 (※・南以外)	リーガロイヤルホテル広島	広島市中区基町6-78	尾崎商学部長
6.13(日)	関西(大阪) (※・南以外)	ホテルラフォーレ新大阪	大阪市淀川区宮原1-2-70	高木法学部長
6.19(土)	岡山 (※・南のみ)	岡山プラザホテル	岡山市浜2-3-12	佐々木薬学部長
6.19(土)	鳥根 (※・南以外)	ホ テ ル 一 畑	松江市千鳥30	稲垣教養部長
6.20(日)	関西(大阪) (※・南のみ)	リーガロイヤルNCB	大阪市北区中之島6-2-27	野口歯学部長
6.20(日)	東京	八重洲富士屋ホテル	東京都中央区八重洲2-9-4	引田入試センター部長
6.20(日)	高山	高山グリーンホテル	高山市西之一色町2-180	横総合政策学部長
6.26(土)	名古屋(日進) (※・南以外)	日 進 学 舎	日進市岩崎町阿良池12	佐藤心身科学部長
6.27(日)	名古屋(日進) (※・南以外)	楠 元 学 舎	名古屋千種区楠元町1-100	佐々木薬学部長 小出(龍)副学長 野口歯学部長
7. 3(土)	岐阜	岐阜グランドホテル	岐阜市長良648番地	高木法学部長
7. 4(日)	四日市	四 日 市 都 ホ テ ル	四日市市安島1-3-38	安藤文学部長 寶多 図書館情報センター館長
7. 4(日)	浜松	オークラアパホテル浜松	浜松市板屋町111-2	黒神学生部長

鳩山首相主催晩餐会に 小出学院長招待される

日本とラオス人民民主共和国との国交回復55周年を記念して、日本政府は3月にラオス国のチュンマリ国家主席、トロン外務大臣他経済関係大臣を日本に招聘し、両国の友好親善、経済協力の強化を促進させた。両国首脳会議、経済関係諸会議の他、初めての日本公式訪問のため宮中に参内し、天皇陛下に拝謁の行事もあり、多忙な日程であった。そして最後の夜は鳩山首相夫妻主催晩餐会が首相官邸で開催されたが、鳩山首相夫妻の他、両国政府関係者、経済界代表、両国大使と共に、ラオス名誉総領事の小出学院長も招待され、両国間の友好親善がさらに進められた。

本学にラオス名誉総領事館が開設されたのは5年前で、日本・ラオス国交回復50周年の記念行事の一つとして開設された。当時名古屋は国際万博（EXPO）開催のため、中部国際空港が新設され、名古屋とラオス間はハノイ経由で大幅に短縮される見通しとなった。また当時名古屋はトヨタ自動車始め名古屋の産業界の最盛期で、世界の中の名古屋として経済活動も活発化していた。その様な環境下でラオス領事館を名古屋に開設する事はラオスの経済発展のため最善であると、ラオス駐日大使に名古屋開設を勧誘した事が、実現したものです。その実現には本学歯学部にある。

愛知学院大学と日進市 協定調印

4月22日（木）日進市役所に、日進市と愛知学院大学の官学連携の協定調印式が大野榮人学長、萩野幸三日進市長の出席のもと行われた。今後は互いの担当者で連絡調整会議を置き、スムーズな事業実施を図る。

協定調印式では最初に調印に至るまでの双方の経緯が紹介され、萩野日進市長の挨拶、大野学長の挨拶の後、協定書にそれぞれが署名し行われた。これまで、本学では大学の図書館の市民開放、各種市民講座など、個々の部署で日進市との連携を行ってきたが、この協定をもとに今後は両者合同の防災訓練や美化活動など大学全体と日進市という大きな枠組みで連携を密にする予定している。

大野榮人学長は「地域への貢献度は大学評価にもつながる。これまでの個々の連携を公にする協定」と語り、萩野幸三日進市長も「これまで以上に連携を深め、知的財産や若いパワーを町づくりに力を借りたい」と期待を述べた。



来る 三月 四日（木曜日）午後七時
総理 大臣 官邸 において和餐を差し上げたものと存じますので御来臨くださいますようお願い申し上げます
御案内申し上げます
平成二十二年 三月 一日
内閣総理大臣 鳩山 由紀夫 幸
小出 忠孝 殿
（服装 平服）

ラオス人民民主共和国チュンマリ国家主席 兼党書記長訪日歓迎晩餐会

ラオス国、日本国外交関係樹立55周年を記念して、チュンマリ国家主席が公式訪問された。

国家主席をお迎えして訪問第1日目の晩餐会が、ラオス人民民主共和国名誉総領事館（小出忠孝名誉総領事）と日本口蓋裂協会共催により、平成22年3月2日（火）18時30分より、ホテルニューオータニにて開催された。日本口蓋裂協会理事岸田茂氏による開会の辞の後、主催者を代表して名誉総領事の小出忠孝教授（愛知学院大学学長）による挨拶、さらに日本歯科医師会会長の大久保満男氏による歓迎の辞があり、チュンマリ・サイニャーソン国家主席によるお言葉を賜った後、琉球大学学長岩政輝男教授に

よる乾杯の御発声により、宴に入った。会合は引田弘道教授（ラオス研究所所長）による閉会の辞で終了した。会合は夏目長門教授（名誉総領事館事務担当）の司会によって終始なごやかに進められた。愛知学院大学からは心身科学部長佐藤祐造教授も参加された。

なお、チュンマリ国家主席は3月3日には天皇皇后陛下との午餐会に、4日には鳩山由紀夫内閣総理大臣主催の晩餐会に出席された。



言語聴覚士国家試験 合格率95.7%を達成

平成22年2月20日に行われた第12回言語聴覚士国家試験の結果が厚生労働省より発表された。本学から受験申請した23名中22名が合格。内訳は心身科学部健康科学科・心理学科の本年度卒業生が21名中20名合格。昨年度卒業生が2名中2名合格。合格率は、全国平均の64.8%を大きく超える95.7%と極めて優秀な成績を取った。合格した皆さん、おめでとうございませう。

言語聴覚士養成は心身科学部健康科学科言語聴覚科学コースにおいて行われ、心理学科からも履修が可能であり、全国唯一の科目指定校となっています。

平成22年2月20日に行われた第12回言語聴覚士国家試験の結果が厚生労働省より発表された。本学から受験申請した23名中22名が合格。内訳は心身科学部健康科学科・心理学科の本年度卒業生が21名中20名合格。昨年度卒業生が2名中2名合格。合格率は、全国平均の64.8%を大きく超える95.7%と極めて優秀な成績を取った。合格した皆さん、おめでとうございませう。

取得を前提として、臨床的実践力ならびに研究力の涵養を目的とした医学教育に準じたFD活動が必要と考えている。本コースは40年の歴史を誇る歯学部言語聴覚外来を基礎に設置され、現在では健康科学科に加え、心理学科および健康栄養学科との緊密な連携の上に、発達分野、摂食・嚥下分野（のみ込み）にも対応できる次世代STの養成を目指している。さらに、大学院課程を通して、関連領域とのダブルライセンスが取得できるようカリキュラム改革にも取り組んでいる。また、言語聴覚担当教員は保健センター、心理臨床センター、歯学部附属病院の臨床に携わり、近隣施設（八事市立、名市大、名大）とも共同研究を進めている。

歯学部 内藤宗孝准教授ら 第13回日本顎顔面インプラント 学会学術大会にて発表理事長賞を受賞



内藤 宗孝
歯学部准教授

平成21年12月12・13日の両日にわたり佐賀市にて開催された第13回日本顎顔面インプラント学会学術大会において、歯学部 内藤宗孝准教授（歯科放射線学講座）らの研究グループの「コーンビームCTを用いた下顎骨海綿骨骨密度の推定」と題した口頭発表に対して、発表理事長賞が送られた。

平成21年12月12・13日の両日にわたり佐賀市にて開催された第13回日本顎顔面インプラント学会学術大会において、歯学部 内藤宗孝准教授（歯科放射線学講座）らの研究グループの「コーンビームCTを用いた下顎骨海綿骨骨密度の推定」と題した口頭発表に対して、発表理事長賞が送られた。

第14回日本体力医学会 教養部 北村 伊都子講師が 奨励賞を受賞



平成22年3月27日に名古屋大学で開催された第14回日本体力医学会東海地方会学術集会上において、本学教養部健康科学の北村伊都子講師が奨励賞を受賞した。

演題名は「閉経時期の体脂肪、身体組成の変化についての検討」である。加齢に伴う肥満の増加や身体組成の変化は、動脈硬化や身体活動能力の低下に関与するが、本研究では、こうした変化への閉経の影響に着目して検討を行ったものである。

今後の北村講師の更なる活躍を期待したい。

平成22年度 入学式

例年になく暖かく、今年の桜の開花が早く、桜の花を気にしながら指折り数えて迎えた入学式。その願いがかない、キャンパス内にある千本を超える満開の桜の下、平成21年度入学式が4月5日、大学2845名、大学院187名、短期大学部116名の併せて3148名の新生を迎え、日進キャンパス百周年記念講堂にて行われた。

式当日の空模様も心配されが、雨にならず新生の新生活への希望にあふれた笑顔がキャンパス中に溢れ、新たな息吹を感じることができた。式は9時15分から心身科学部・法学部・総合政策学部・薬学部・歯学部・大学院。11時15分からは文学部・商学部・経営学部・留学生別科の2回に分かれて行われ、今年度より学長に就任した大野榮人学長の式辞に続いて、小出忠孝学院長、湯澤信雄校友会会長らが祝辞を述べ新生を祝福した。新生らは熱心に聴き入って

いた。式終了後は学部学科毎に教室に分かれ、教員との対面式や、大学生の証である学生証の授受など、大学生としての最初の1日を過ごした。また、短期大学部・歯科技工専門学校との入学式は4月6日、補元キャンパス百周年記念講堂にて行われた。様々な想いで大学の正門アichiをくぐってきた新生生活君に、豊かで実りある学生生活が形成されんことを願う。

第1回 春のオープンキャンパス開催

今年度1回目となるオープンキャンパスが4月18日(日)に開催された。けやきテラスをメイン会場として、各学部の教員による個別相談をはじめ、学生によるキャンパスライフ」と題し、

本学学生の等身大のコトバから大学生活をイメージしてもらおう企画や、クラブ・サークル見学など、高校生に興味のある色んなイベントを開催。また、保護者を対象とした説明会も開催。当日は1千名を

超す高校生・保護者の皆さんが来校し、熱心に教員・入試スタッフなどに質問する姿など、本学を目指す方々にとって有意義な1日となったものと思います。



平成21年度 第2回流通科学研究所講演会開催

本年度第2回流通科学研究所主催講演会が、11月19日(木)午後1時30分から日進キャンパス学院会館大ホールにて開催された。

講師に株式会社恵那郡川上屋代表取締役社長の鎌田真悟氏を迎え、「風が吹くと...」地域の宝で街おこし、果てつながる地域の連携」をテーマに講演が行われた。地元を生産者と連携して、「恵那県」を復活させ、ブランド化を進めた農工商連携の取り組みや街おこしの活動などについて、あふれんばかりの思いを込めて説明がなされた。当日は会場が満席となり、参加者は熱心に講師の話に耳を傾けていた。



2010年

本学経営学部卒業 羽木 美幸 さん

物流研究奨励賞を受賞

本学経営学部を2010年卒業した羽木 美幸さんに、平成21年3月12日、日本物流学会より物流研究奨励賞が授与された。羽木さんは「情報通信技術を活用した輸送の共同化とそれによる今後の展開に関する研究」をテーマに論文を書き、物流研究奨励賞が授与された。

その努力を評し本学から4月27日、大野榮人学長より表彰状が手渡された。羽木さんは現在、自動車関連の職についており、今後はさらに大学で研究したことを発展させられるよう実社会で経験を積んでいく。



で行きたいと抱負を述べていた。今後益々の羽木さんの活躍が期待される。

長久手古戦場 大学 無料 シャトルバス 運行開始

リニモ(愛知高速交通)の長久手古戦場駅と大学を結ぶ無料シャトルバスが4月1日より運行を開始した。バスは8分ほどで長久手古戦場駅と大学を結び、名古屋市内からはリニモの通学定期を購入しても藤が丘からの路線バス利用より安くなる。

運転ダイヤは授業開始時間に合わせ1日44往復を運転。4月の1日当たりの利用は平均1000名が利用している。シャトルバス導入に伴い、藤が丘駅での路線バスの混雑が緩和されスムーズに大学まで通学が可能となった。

愛知学院大学相撲場 土俵開き

日進キャンパスに新しく相撲部の土俵が完成し、3月4日(木)午前11時より土俵開きが行われました。今までは体育館の中に土俵があったが、体育館のリニューアル工事に伴い、相撲部専用の練習場と

して新たに棟を建てて土俵が完成した。式には、学生部長、事務局長ならびに相撲部のOBらが参列し、厳粛のうちに終わりました。

著書紹介

『Buddhism in Some American Poets: Dickinson, Williams, Stevens and Snyder』

(英文:博士論文)田中泰賢著(Hiroyoshi Taiken Tanaka)雄松堂出版、12,600円(税込)

本書は19世紀から20世紀におけるアメリカ詩と仏教との関係について述べている。とりあげた詩人は全てアメリカを代表する詩人。1章: Emily Dickinson(1830-86)、2章: William Carlos Williams(1893-1963、医師)、3章: Wallace Stevens(1895-1955、保険会社の副社長)、4章: Gary Snyder(1912-、大学教授)をとりあげている。



『専門訴訟講座③保険関係訴訟』

塩崎 勤・山下 文・山野嘉朗(編著)

本書は、保険に関する訴訟上の問題を、保険法理・保険実務・裁判実務の観点から追究し、解決指針を示す専門書である。執筆陣は、斯界の著名な学者、裁判官、弁護士、保険実務家。

編著者の1人は法学部の山野嘉朗教授。民事法研究会刊。

本体6800円(税別)

